

(第1号様式)

令和2年4月21日

神奈川県教育委員会教育長 殿

学校教育計画（令和2年度～令和5年度）

学校名	中原養護学校	課程・学科 教育部門・学部	肢体不自由教育部門 知的障害教育部門
-----	--------	------------------	-----------------------

1 学校のミッション

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労の取組を促進し、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のための、一貫した教育を行う。医療的ケアを必要とするなど、多様な教育的ニーズのある児童・生徒の、教育活動全般について、安全に実施する校内体制の整備をすすめ、個々の障害及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導を実施する。

加えて、多角的な視点による校内支援体制の充実を図り、児童・生徒が主体的に力を発揮できる授業実践の充実に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

2 学校教育目標

自ら考え、行動できる生徒

- ① じょうぶに 生きよう がんばろう…健康で、まじめに取り組む力
- ② ゆたかに 生きよう ほおえもう…情操が豊かで、理性的に考える力
- ③ なかよく 生きよう はたらこう…協調性があり、人や社会と連携できる力

3 計画策定時点での課題

- ① 教育課程については、肢体不自由教育部門の小・中・高等部の系統性と知的障害教育部門も含め、高等部での生活年齢及び発達段階に応じた一貫性のある指導について、キャリア教育の視点から見直す必要がある。
- ② 高等部で取組んでいる進路学習・作業学習については、社会の動向を踏まえて学習内容・方法等を見直す必要がある。
- ③ 地域のインクルーシブ教育については、なお一層の学校コンサルテーションを推進するための段階的・計画的な支援方略が求められる。
- ④ 耐震化・老朽化対策工事期間を踏まえ、なお一層の防災学習や避難訓練等の取組みについて、近隣施設との連携が必要である。
- ⑤ 地域へ働きかける共生社会づくりへの取組については、学校教育活動の広報活動や地域住民等との協働学習活動のさらなる拡大が必要である。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	・児童・生徒が主体的に学び行動し、対話的に学び高めあう力を育み、地域の資源等を活用した活動を取り入れ社会に開かれた教育課程を編成する。	・校内研究のテーマとして学校全体として取り組む。 ・各学部で地域の資源等を活かした活動や授業を実践する。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた専門性の高い指導を行うと共に校内指導体制をさらに整備する。	・教員の研修体系「中原スタンダード」を定着させると共に改善していく。 ・アセスメントに基づく指導を検証していく。
3	進路指導・支援	個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。	・全ての学部の教員が地域資源や進路指導について理解を深め、学部段階に応じた指導を行う。
4	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、共生社会の実現のために地域と連携した活動を展開する。	・地域の学校や福祉機関等と連携し、センター的機能の充実を図る。 ・地域に向けた研修、地域住民と協働して行うイベント・防災対策等を計画する。
5	学校管理 学校運営	保護者や地域から信頼・信用される安心安全な学校づくりを行う。	・安心安全にむけた業務の見直し改善に取り組む。また。校内の多様なつながりのある組織づくりを行う。 ・様々なツールを使って学校からの情報発信力を高める。